

2. 志摩市人口ビジョンに新規に掲載するデータ

33. 小学校別 児童数の推移

1) 説明文

昭和 55 年度から国勢調査の実施年度ごとの市内児童数の推移を示した表が、表○です。
 志摩市の児童数は、昭和 55 年度から平成 27 年度までの 30 年余りで約 65%減少しています。
 志摩市発足以来、学校の統合を進めているため、学校数は昭和 55 年度の 20 校から平成 27 年
 度には 17 校に減少しています。

2) 図・表

地区別	統合前	統合後	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27
浜島町	浜島小	浜島小	626	548	409	334	281	238	190	125
	南張小		45	43	25	19	14			
	迫塩小		69	48	45	69	68			
	小 計		740	639	479	422	363	285	190	125
大王町	畔名小	波切小	71	47	40	31	32	28	22	180
	波切小(分校舎)		675	598	460	414	278	249	201	
	船越小		206	174	133	130	128	121	90	29
	小 計		952	819	633	575	438	398	313	209
志摩町	片田小		327	208	183	172	169	164	89	36
	布施田小		226	170	161	173	168	152	124	58
	和具小(分校舎)		744	655	541	472	435	319	254	233
	越賀小		239	206	182	168	100	90	70	25
	御座小(H26年度から休校)		89	59	68	72	50	28	23	
小 計		1,625	1,298	1,135	1,057	922	753	560	352	
阿児町	鵜方小		755	688	647	677	647	634	567	511
	神明小		302	359	292	272	272	261	269	236
	立神小		166	119	112	121	90	101	86	54
	甲賀小		207	219	217	191	173	164	160	158
	志島小		96	109	76	61	61	44	44	44
	国府小		124	133	99	107	115	91	92	62
	安乗小		281	214	188	147	141	115	88	67
小 計		1,931	1,841	1,631	1,576	1,499	1,410	1,306	1,132	
磯部町	磯部小(分校舎)		736	636	559	507	415	411	352	272
	的矢小		106	88	81	78	92	67	29	13
	成基小		67	56	50	73	47	41	30	27
	小 計		909	780	690	658	554	519	411	312
合 計			6,157	5,377	4,568	4,288	3,776	3,365	2,780	2,130

表○ 小学校別 児童数の推移 (資料出所：志摩市)

3) 掲載ページ

6 ページ「1-6. 出産適齢期の女性の人口減少」の次に掲載予定

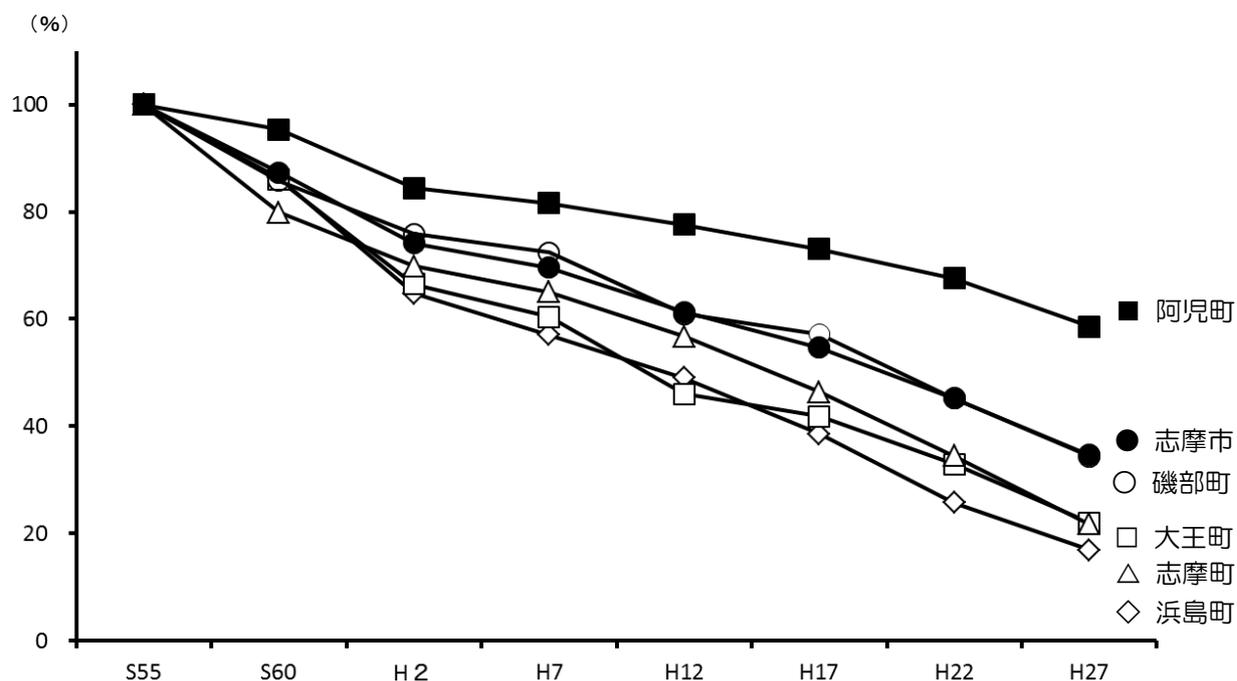
34. 町別の児童数の変化率

1) 説明文

昭和55年度から平成27年度までに児童数がどのように変化してきたかを各地区ごとに示したグラフが、**図〇**です。

志摩市の児童数は、昭和55年度を100とした場合、平成27年度までの30年余りで約34.6%まで減少しています。地区別では、阿児町が58.6%で唯一児童数が半減していない地区となっています。次いで、磯部町が34.3%、大王町が22.0%、志摩町が21.7%、浜島町が16.9%となっています。

2) 図・表



図〇. 町別の児童数の変化率 (資料出所: 志摩市)

3) 掲載ページ

6 ページ「1-6. 出産適齢期の女性の人口減少」の次に掲載予定

35. 中学校別 生徒数の推移

1) 説明文

昭和 55 年度から国勢調査の実施年度ごとの市内生徒数の推移を示した表が、表○です。
 志摩市の生徒数は、昭和 55 年度から平成 27 年度までの 30 年余りで約 53%減少しています。
 中学校の統合を進めた結果、学校数は昭和 55 年度の 11 校から平成 27 年度には 7 校に減少しています。

2) 図・表

地区別	統合前	統合後	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27
浜島町	浜島中		339	338	298	228	188	170	145	87
	小 計		339	338	298	228	188	170	145	87
大王町	波切中	大王中	209	388	295	245	215	143	120	135
	船越中		111	94	76	60	59	59	54	
	小 計		320	482	371	305	274	202	174	135
志摩町	片田中	志摩中	193	161	100	85	81	71	69	256
	和具中		525	441	386	344	326	293	235	
	越賀中		125	159	122	130	118	68	55	
	小 計		843	761	608	559	525	432	359	256
阿児町	文岡中		452	542	515	483	473	444	440	469
	東海中		272	309	276	261	240	226	207	173
	安乗中		134	141	93	93	70	72	52	32
	小 計		858	992	884	837	783	742	699	674
磯部町	磯部中		412	410	348	308	276	209	227	187
	的矢中	文岡中	69	45	44	35	36	42	29	—
	小 計		481	455	392	343	312	251	256	187
合 計			2,841	3,028	2,553	2,272	2,082	1,797	1,633	1,339

表○ 中学校別 生徒数の推移（資料出所：志摩市）

3) 掲載ページ

6 ページ「1 - 6. 出産適齢期の女性の人口減少」の次に掲載予定

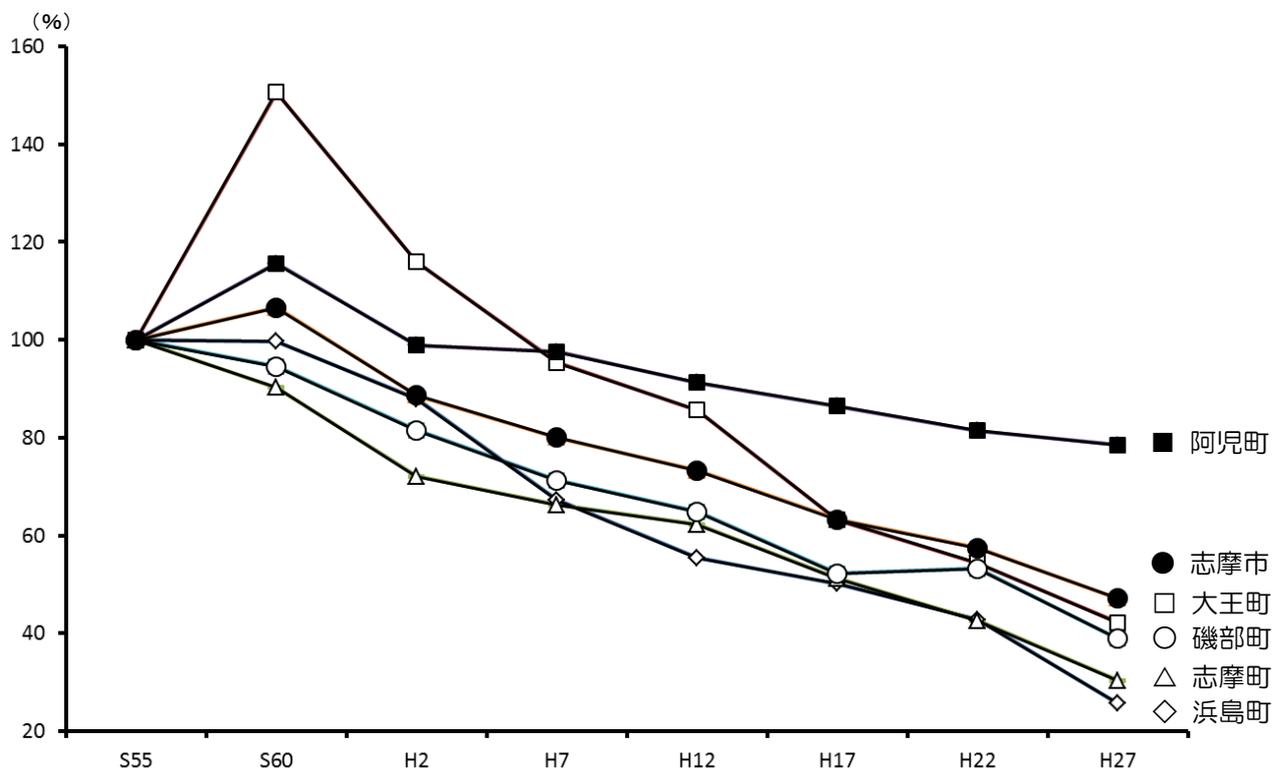
36. 町別の生徒数の変化率

1) 説明文

昭和55年度から平成27年度まで生徒数がどのように変化してきたかを各地区ごとに示したグラフが、**図〇**です。

志摩市の生徒数は、昭和55年度を100とした場合、平成27年度までの30年余りで47.1%まで減少しています。地区別では、阿児町が78.6%で唯一生徒数が半減していない地域となっています。次いで、大王町が42.2%、磯部町が38.9%、志摩町が30.4%、浜島町が25.7%となっています。

2) 図・表



図〇. 町別の生徒数の変化率 (資料出所: 志摩市)

3) 掲載ページ

6 ページ「1 - 6. 出産適齢期の女性の人口減少」の次に掲載予定

37. 平成 27 年度 中学校卒業生の進路希望

1) 説明文

平成 27 年度に志摩市内の中学校を卒業する生徒の進路希望を示した表が、表〇です。
志摩市内の高校への進学希望者が 29.3%であるのに対し、伊勢市内の高校への進学希望者が 55.5%と最も多く、2つの地域で約 85%の生徒が進学先として希望していることとなります。
また、県内のその他地域にある高校への進学希望者は、13.0%、県外の高校への進学希望者が 2.0%となっています。

2) 図・表

	人数(人)	割合(%)
志摩市内の高校への進学希望者数	135	29.3
伊勢市内の高校への進学希望者数	256	55.5
県内他地域の高校への進学希望者数	60	13.0
県外の高校への進学希望者数	9	2.0
就職希望者数	1	0.2
合計	461	

表〇. 平成 27 年度中学校卒業生の進路希望 (資料出所: 志摩市)

3) 掲載ページ

6 ページ「1-6. 出産適齢期の女性の人口減少」の次に掲載予定

38. 産業・雇用創造チャート比較

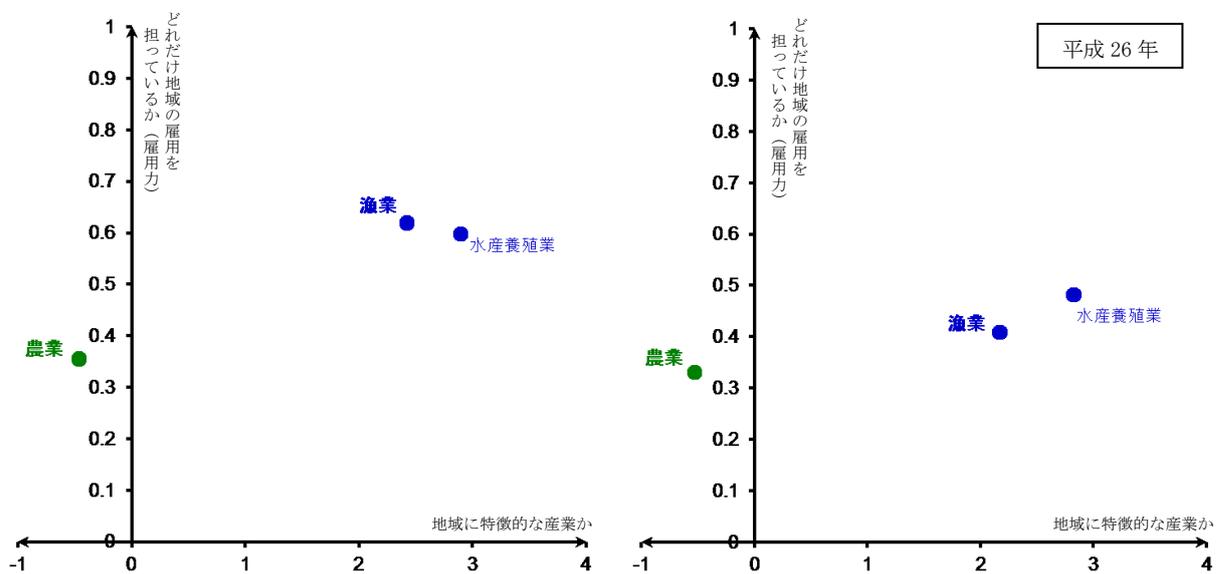
1) 説明文

産業・雇用創造チャートのうち、産業分野別に平成21年と平成26年の経年比較を示したものが図〇から図〇になります。

2) 図・表

① 一次産業

一次産業については、農業は大きな変化は見られず、地域に特徴的な産業ということはできません。一方、漁業及び水産養殖業は、雇用力は低下していますが、地域に特徴的な産業となっています。



図〇. 志摩市の産業・雇用創造チャート（一次産業）

（資料出所：平成21年、平成26年経済センサス基礎調査）

② 建設業

建設業については、土木工事業、建築工事業等の総合工事業が、引き続き市内の雇用を支えている産業といえ、また地域に特徴的な産業となっています。一方、大工、鉄骨・鉄筋工、左官業等の職別工事業は雇用力が低下しており、これら産業の弱体化が懸念されます。

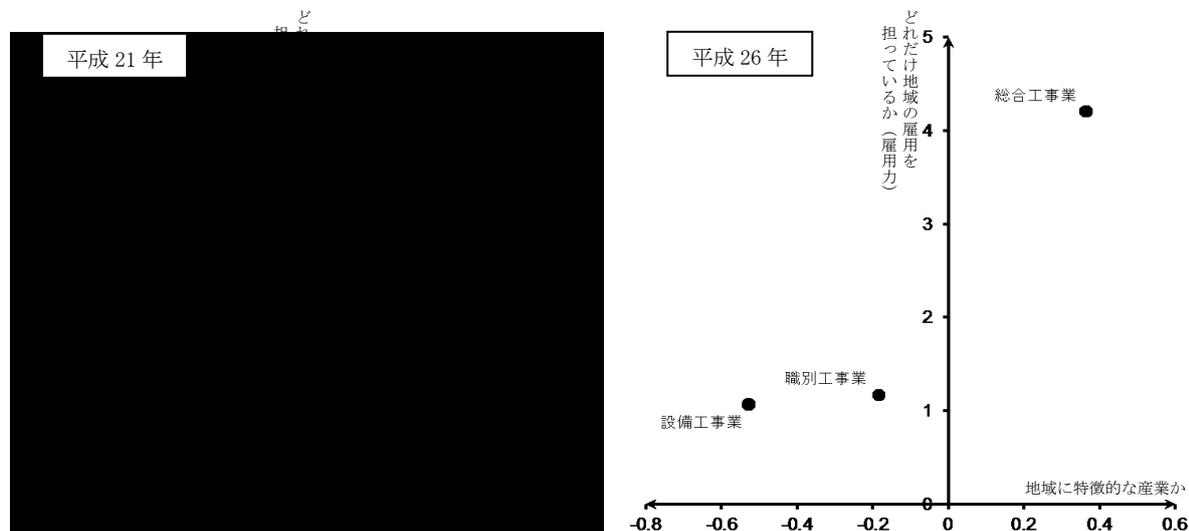


図0. 志摩市の産業・雇用創造チャート（建設業）

（資料出所：平成21年、平成26年経済センサス基礎調査）

③ 卸売・小売業

卸売・小売業については、飲食料品小売業が、雇用力及び地域に特徴的な産業としての指数が低下していますが、総合スーパー等の各種商品小売業の雇用力が大きくなるとともに地域に特徴的な産業としての指数も伸びています。このことから、大きなスーパー等が買い物の中心となり地域の小売店が減少している状況を反映していると推測されます。一方、店舗を持たず通信販売等を行う無店舗小売業については、雇用力が大きくなるとともに、地域に特徴的な産業としての指数も増加しています。

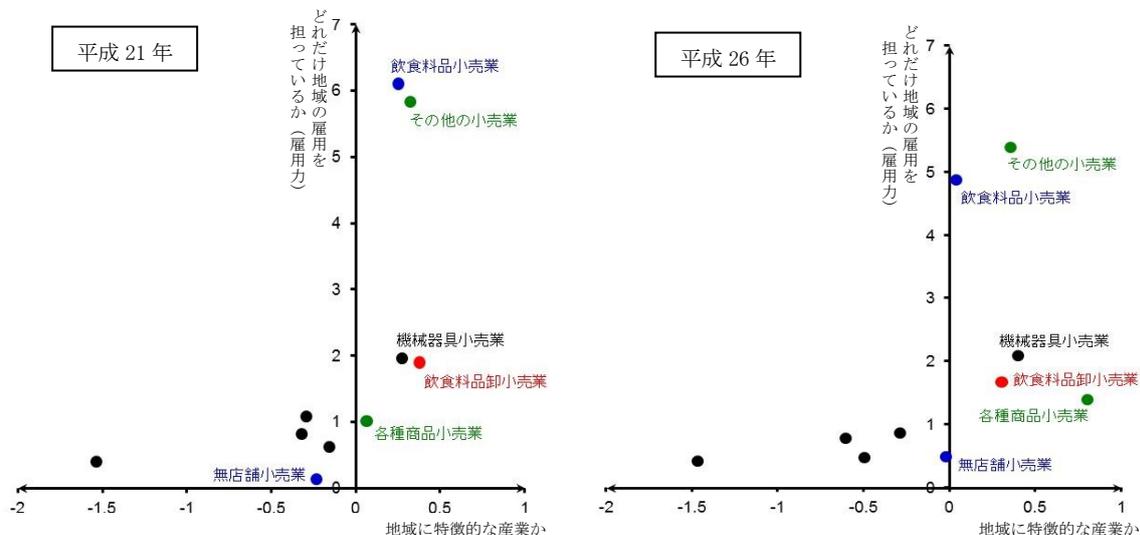
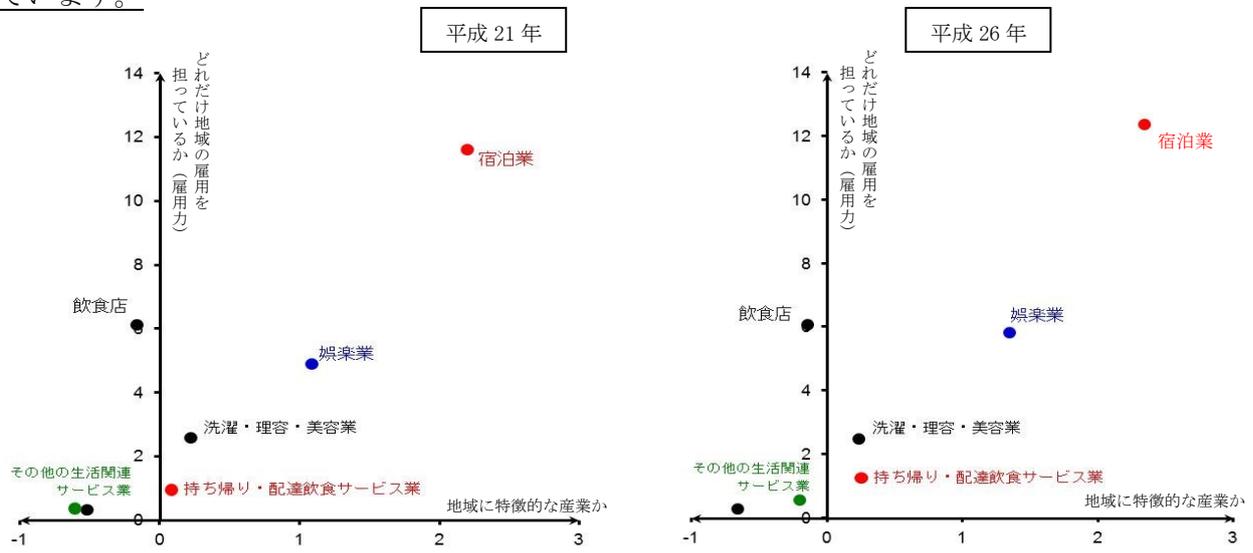


図0. 志摩市の産業・雇用創造チャート（卸売・小売業）

（資料出所：平成21年、平成26年経済センサス基礎調査）

④ サービス業（宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業）

サービス業については、宿泊業及び遊園地やゴルフ場等の娯楽業の雇用力及び地域に特徴的な産業としての指数は高く、その傾向は強まっており、志摩市の基幹産業であると言えます。一方、飲食店については、大きな変化は見られませんが、比較的高い雇用力を維持しています。持ち帰り・配達飲食サービス業は、わずかながら雇用力及び地域に特徴的な産業としての指数が高まっています。

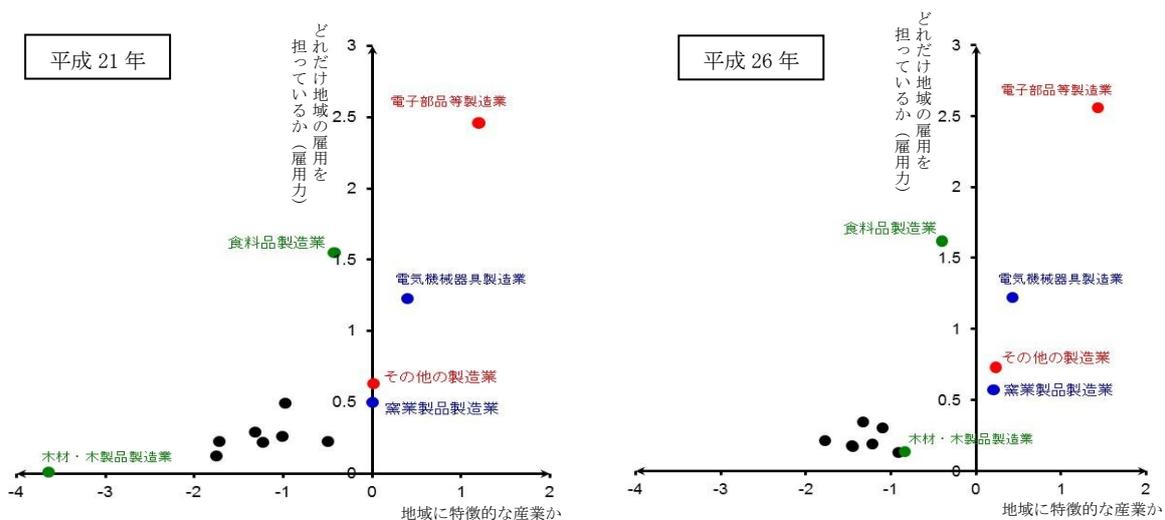


図〇. 志摩市の産業・雇用創造チャート（サービス業）

（資料出所：平成21年、平成26年経済センサス基礎調査）

⑤ 製造業

製造業については、電子部品等製造業が、市内における雇用力及び地域に特徴的な産業としての指数が比較的高くなっています。また、真珠製品製造等が含まれるその他の製造業、陶磁器製造業等の窯業製品製造業及び木材・木製品製造業については、わずかながら雇用力が高まり、地域に特徴的な産業としての指数が高まっています。



図〇. 志摩市の産業・雇用創造チャート（製造業）（資料出所：平成21年、平成26年経済センサス基礎調査）

3) 掲載ページ

28 ページ「1 - 3. 志摩の産業構造」の次に掲載予定